

# 宿泊型新保健指導 (スマート・ライフ・ステイ) 事業の概要と進捗状況について

AMED 平成27年度循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業  
生活習慣病予防のための宿泊を伴う  
効果的な保健指導プログラムの開発に関する研究班  
代表 津下 一代

# 糖尿病が疑われる者等を対象として、ホテル、旅館などの宿泊施設や地元観光資源等を活用して、医師・保健師・管理栄養士・健康運動指導士等の多職種が連携して提供する新たな保健指導プログラム

## 宿泊型新保健指導(スマート・ライフ・ステイ)プログラム

### 全体パッケージ(イメージ)

#### 保健指導プログラム



医師 保健師 管理栄養士 健康運動指導士  
理学療法士 作業療法士 etc

地元医師会や  
自治体との連携

#### スポーツ、観光などのオプション



健康観光産業

#### 健康増進施設・保養所・ホテル・旅館

(企業や健保組合の保養所、都心部・保養地の  
ホテル・旅館を活性化)

#### スケジュール(案)

平成26年度  
プログラム(案)の検討  
(厚労科研による研究)

平成27年度  
研究成果を踏まえた  
試行事業

平成28年度以降  
普及促進に向けた取組  
(予定)

#### 糖尿病の例

対象者: 2050万人  
医療費: 1.2兆円

①糖尿病の  
可能性が否定  
できない  
1,100万人

(HbA1c > 6.0%)

②糖尿病が  
強く疑われる  
680万人

(HbA1c > 6.5%)

患者数  
270万人

特定健康診査

など

(一部)  
教育入院

#### 〈メリット〉

- ① 快適な環境でやる気向上
- ② 集中的な保健指導で効果向上
- ③ 将来的な重症化を予防

#### 〈目的〉

健康増進、健康・観光産業の発展、  
医療費適正化を同時に実現

# 健診結果の理解＝自分の体の中で起こっている変化を理解

日常と離れ  
健康の大切さ  
を実感

あっ！そうか！（納得）  
やらないとまずいな！（危機感）

何かからはじめますか？

体験やより詳しい説明  
疑問の解消により  
本人にあった目標設定

**行動目標設定**

スマート  
・ライフ  
・ステイ

行動を起こしてみる  
セルフモニタリング

**行動変容**

できた！（自信・達成感）  
体調がいいな！（感覚）

Positive feedback

**実行支援  
評価・励まし**

気持ちよさ、快適さを実感

継続しやすい  
環境づくり

**習慣形成**

# スマート・ライフ・ステイは多職種・多業種連携

効果的、実践的な保健指導の実施⇒健康寿命の延伸  
地域の活性化、ヘルスケア産業の健全な育成

## 新しいプログラムの共同開発

今まで効果が上がりにくかった対象者への保健指導

### 専門職による保健指導

- 体験学習の中でより重点的な保健指導を経験できる
- 参加者の疑問・実態を知る
- 多職種連携により、指導の幅が広がる
- 研究班との共同作業により効果的な保健指導方法を学習する機会が増える
- 健康な環境づくりに貢献できる

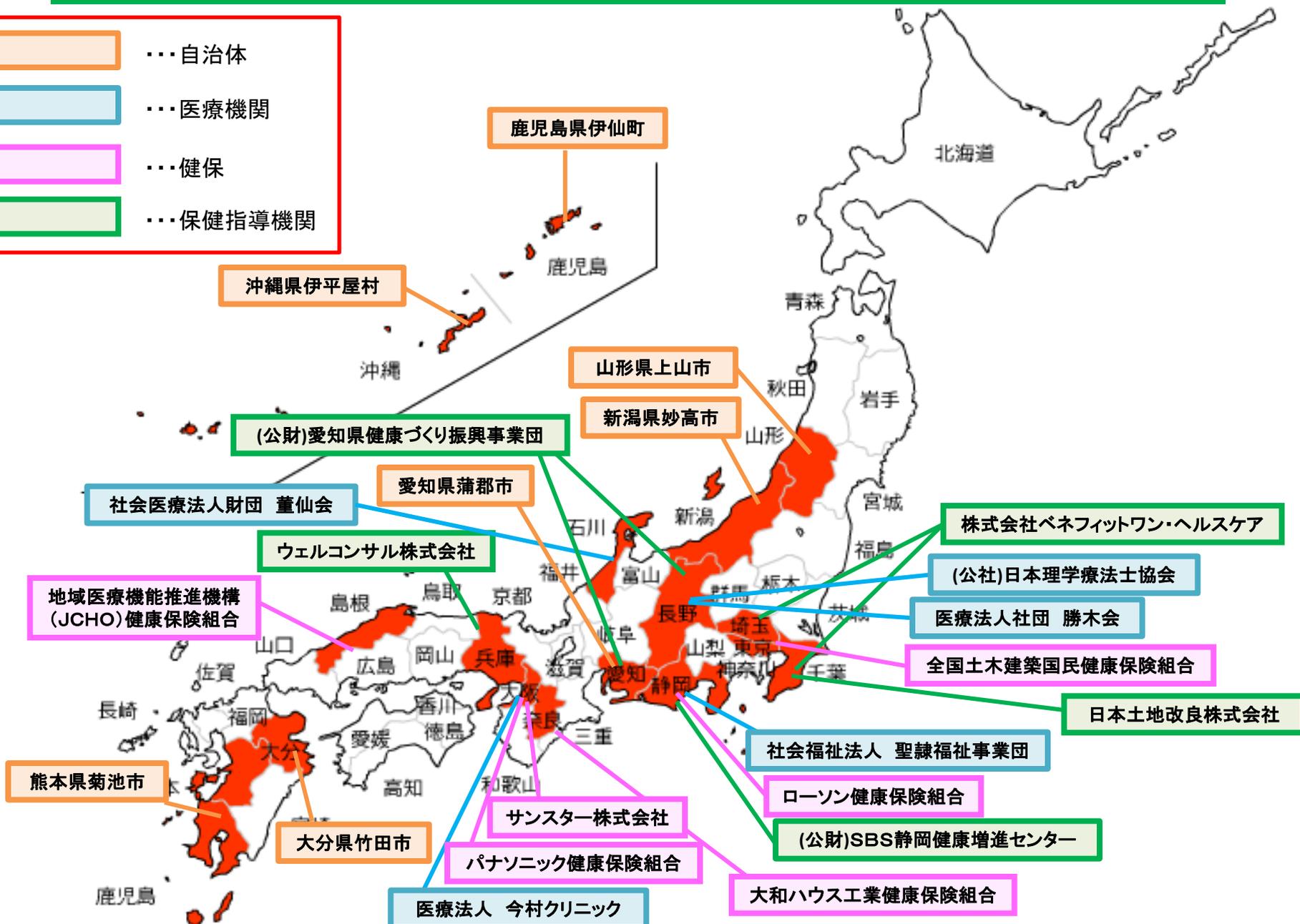


### 宿泊施設

- 新たな宿泊スタイルの開発
- 健康的な食事を管理栄養士等と考案、新たなウリに
- 身近な自然や施設の利活用等
- 医療保険者や保健指導実施者等とのネットワーク

# 試行事業実施機関(23機関)

- …自治体
- …医療機関
- …健保
- …保健指導機関



# 平成27年度宿泊型新保健指導試行事業の実施体制

資料2

## 試行事業と厚生労働科学研究班の役割

【担任制】分担研究者がそれぞれ事業実施者を担当 【保健指導実施者等の事前研修会の実施】 【事前相談】  
 【進捗管理】定期報告に基づく助言・指導、進捗管理及び視察 【評価分析】提出データに基づく科学的指標の分析・評価 等



### 厚生労働科学研究

厚生労働科学研究委託費 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業  
 生活習慣病予防のための宿泊を伴う効果的な保健指導プログラムの開発に関する研究

津下一代(あいち健康の森健康科学総合センター)  
 矢部大介(神戸大学)  
 村本あき子(あいち健康の森健康科学総合センター)  
 小熊祐子(慶應義塾大学スポーツ医学研究センター)  
 佐野喜子(神奈川県立保健福祉大学)  
 榊山舞(大阪大学)  
 八谷寛(藤田保健衛生大学)

宿泊型新保健指導プログラムの開発  
 運営マニュアルの作成  
 指導者のためのガイドライン作成 等

事業結果を反映してプログラムを改訂

### 相談・進捗管理

定期的な  
事業報告

視察

助言・指導

事業  
実施者

中間報告会

最終報告会

PDCAサイクル

実施7月から12月

試行事業  
公募・選定

宿泊型新保健指導  
プログラム(案)の提示

宿泊型新保健指導  
(スマート・ライフ・ステイ)  
プログラム改訂

試行事業  
報告書提出

準備  
4月  
から  
6月

まとめ  
1月  
から  
3月

事業  
実施者

事業実施計  
画の提出

事前  
相談

事前  
研修

評価  
分析

データの  
提出

事業  
実施者

フィード  
バック





# 研究班の役割(試行事業実施機関への助言内容)

## ○プログラム作成・関係者との調整

- ・宿泊施設との調整(食事、部屋)
- ・保険者との調整(契約等)
- ・対象者の選定(基準作成)
- ・宿泊地周辺の観光との連携

## ○事前研修・指導の標準化

- ・事前カンファレンス、リスク管理
- ・個人情報取り扱い方法の徹底
- ・運営マニュアル、各種指導  
マニュアルの作成と理解

P

## ○プログラムの実施

- ・対象者からの追加情報収集
- ・相手に合わせた指導内容の調整
- ・担当者同士の連携
- ・継続支援、モニタリング方法説明
- ・必要な資料の回収

A

## ○次回へ反映

- ・各種マニュアルの修正
- ・関係者への連絡、調整
- ・指導者間の共有

C

## ○事業評価と振り返り

- ・データ収集
- ・評価方法の助言  
→[事業評価]宿泊終了時のアンケートから修正すべき点、効果的な内容の確認  
→[効果分析]半年後との比較、他事業との比較など
- ・当日運営の振り返り  
→ 時間や内容の変更、修正、不足、突発的な対応の有無

D